BH79B639H01

MITSUBISHI 三菱電機パッケージエアコン

システムコントロール 工事説明書

販売店・工事店さま用

冷媒R410A対応

PL-ZRP・BA7　PC-RP・HA7
PL-ERP・BA7　PM-（H）RP・FA7
PS-RP・GA7　PCZN-RP・KA7
PC-RP・KA（L）7　PSZN-RP・GA7
PL-RP・JA7

■伝送線配線 リモコンの配線はシステム構成によって異なりますので、以下の例に従って行ってください。

冷媒系統ごとにリモコンを接続する場合
（標準1:1、同時ツイン、同時トリプル、同時フォー）

注：PS-RP・GAシリーズはあてはまりません。

異冷媒系統グルーピングする場合

（例3） 標準1:1 室外ユニット 冷媒アドレス=00（親機）　同時ツイン 室外ユニット 冷媒アドレス=01（子機）　同時トリプル 室外ユニット 冷媒アドレス=02（子機）
TB1 TB4 室内ユニット TB5 ① ② ③ 主リモコン 従リモコン

PS-RP・GAシリーズの場合

（例4） 標準1:1 室外ユニット 冷媒アドレス=00（親機）　同時ツイン 室外ユニット 冷媒アドレス=01（子機）　同時トリプル 室外ユニット 冷媒アドレス=02（子機）
TB1 TB4 制御基板 室内ユニット TB5 ① ② ③ 主リモコン リモコン取外し PS-RP・GA

注：PS-RP・GA形のリモコン用端子盤（TB5）は別売部品となっています。
リモコン接続台数は、②に従い余分なリモコンは取外してください。

記号	名称
TB1	端子盤(室外：電源及び内外接続線)
TB4	端子盤(室内：内外接続線)
TB5	端子盤(リモコン伝送線)

※冷媒アドレスの設定は、室外ユニットのディップSWにて行います。（詳細は室外ユニットの据付工事説明書をご覧ください。）
※図中の①，②，③の番号は、下記①，②，③の注意事項に対応しています。

① リモコンからの配線

- 室内ユニットのTB5（リモコン用端子盤）へ接続します。（極性はありません）
  PS-RP・GAシリーズにはリモコン用端子盤（TB5）が付属されていません。
  本ページのようなグループ制御、ワイヤードリモコンの併用（2リモコン）のシステム構成を組まれる場合は、別売部品の「端子キット」PAC-SH29TCをご購入ください。
- 同時マルチタイプの場合には、いずれか1台の室内ユニットTB5にのみリモコンを接続してください。異なる機種の室内ユニットが混在する場合は、各室内ユニットが持つ全ての機能（風速、ベーン、ルーバー等）を操作することができます。

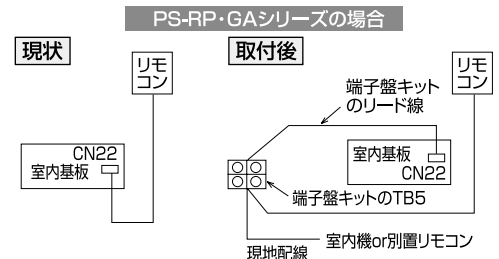
PS-RP・GAシリーズの場合

現状：リモコン　CN22　室内基板
取付後：リモコン　端子盤キットのリード線　室内基板　CN22　端子盤キットのTB5　現地配線　室内機or別置リモコン

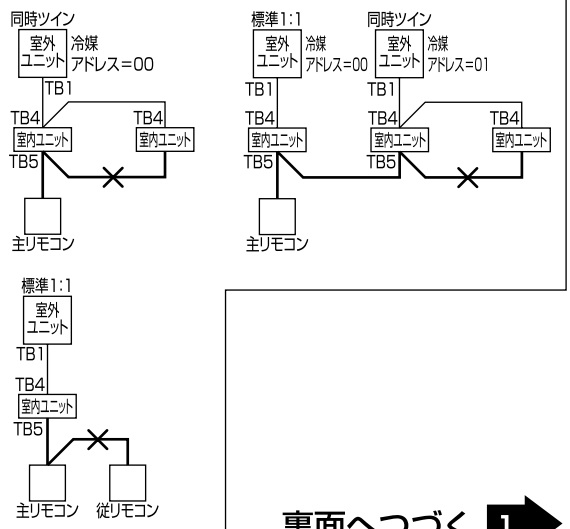
② 1グループに2台までリモコンが接続できます。

- 1グループにリモコンを2台接続した場合、主リモコンと従リモコンの設定を必ず行ってください。
  リモコン主従設定方法は、室内ユニットの取扱説明書（リモコンの機能選択）を参照してください。
  ※1グループのリモコンが1台であれば、主リモコン設定（初期設定）から変更は不要です。
  ※PS-RP・GAシリーズの時に、グループ制御でリモコン接続台数が2台を超える場合は下図のように余分なリモコンを取外してください。
  また、MAスマートリモコンを追加する場合は、本体取付けのリモコンの主従設定を「主」→「従」に設定してください。
  （PAR-33MAの場合は、CO_2排出量が表示可能となります）

③ 異冷媒系統でグルーピングする場合

- リモコン配線によりグルーピングを行います。グルーピングする各冷媒系統の任意の室内ユニット1台とリモコン線にて渡り配線してください。
- 同一グループ内にて異なる機種の室内ユニットが混在する場合、必ず機能（風速、ベーン、ルーバー等）の多い室内ユニットが接続されている室外ユニットを親機（冷媒アドレス＝00）としてください。
- この場合、[破線枠]で囲まれた全室内ユニットを1グループとして制御します。
- MAリモコンでは最大16冷媒系統を1グループとして制御可能です。
  ※PS-RP・GA7形を他の冷媒系統とグルーピングしてPAR-33MAによるCO_2排出量表示を行いたい場合は、PS-RP・GA7形室内基板のSW5-8をONに設定してください。
  但し、PS-RP・GA7形より前の機種とグルーピングする場合は、室内基板のSW変更は不要です。（OFFのままにしてください）
  ※リモコンからの配線は上記①②の条件を満たしてください。

確認

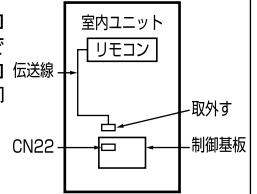
- 同一冷媒系統の室内ユニットTB5への渡り配線は禁止です。渡り配線した場合、システムが正常に動作しません。
- リモコン同士での渡り配線は禁止です。リモコンの端子盤には配線は、1本しか接続できません。

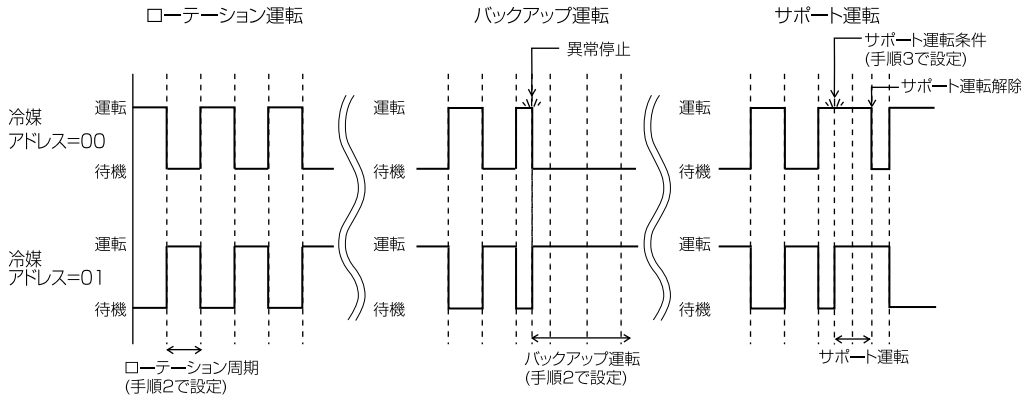
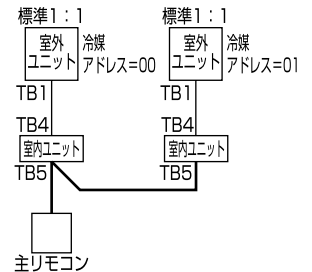
裏面へつづく 1

■リモコンコードの総延長は500mです。ただし、リモコンを2台接続（例2)、(例3)、(例4)でご使用の場合は200m以下にしてください。

- 0.3㎟の電線または2芯ケーブルを使用してください。(現地手配)
- 誤動作する場合がありますので、多芯ケーブル及びシールドケーブルの使用は避けてください。
- リモコンコードはアース（建物の鉄骨部分または金属等）及び電源配線・内外接続線からできるだけ離して施工してください。

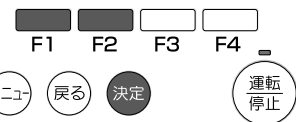
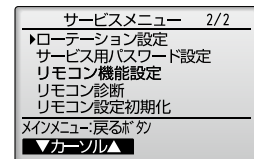
PS-RP・GAシリーズの場合

- リモコンの取外しはリモコン線を取外しするだけでも可能です。伝送線のコネクター（CN22）を制御基板より外してください。

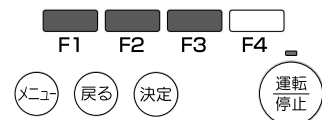
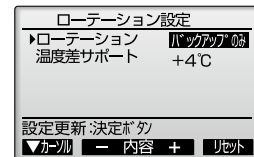
室内ユニット
リモコン
伝送線
取外す
CN22
制御基板

■ローテーション設定

●MAスマートリモコンにより2系統の1:1システムに限り、ローテーション運転やバックアップ運転の設定が可能です。
●ローテーション運転は、各系統を交互運転させ、運転時間の均一化を図ることができます。
●バックアップ運転は、1系統が異常停止した場合でも待機中の系統が起動し、空調を継続することができます。
●サポート運転(パワフルツイン冷房)は、1系統では能力が不足する場合に、自動的に待機中の系統が起動し、補助運転を行います。

① 設定手順

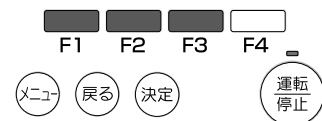
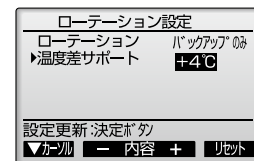
【手順1】リモコンを『ローテーション設定』に切換えます。

●サービスメニュー画面で『ローテーション設定』を選択し、決定 ボタンを押します。

【手順2】ローテーション運転を設定します。

● F1 ボタンで「ローテーション」を選択します。
● F2 、 F3 ボタンでローテーション周期またはバックアップを選択します。

選択項目：無し、1日、3日、5日、7日、14日、28日、バックアップのみ
※1日～28日を選択した場合は、バックアップ機能も有効となります。
※「バックアップのみ」を選択した場合は、冷媒アドレス=00の系統がメインとして運転し、冷媒アドレス=01の系統がバックアップとして待機状態となり、ローテーション運転されません。

【手順3】サポート運転を設定します。

● F1 ボタンで「温度差サポート」を選択します。
● F2 、 F3 ボタンでサポート運転が動作する「吸込み温度と設定温度の差」を選択します。

選択項目：無し、+4℃、+6℃、+8℃
※サポート運転は冷房設定時のみ有効です。(暖房、ドライ、自動設定時は動作しません。)
※サポート運転はローテーション設定で「無し」以外に設定した場合に有効になります。

【手順4】設定更新

● 決定 ボタンを押し、設定を更新します。

② リセット方法

● F4 ボタンでローテーション運転時間がリセットされ、冷媒アドレス=00の系統からの運転となります。
※冷媒アドレス=01の系統がバックアップ運転中の場合は、冷媒アドレス=00が運転に戻ります。

三菱電機株式会社 静岡製作所 〒422-8528 静岡市駿河区小鹿3-18-1 ☎(054)285-1111(代表)